

卒後臨床研修評価機構(JCEP)の認定を受けました

NPO法人卒後臨床研修評価機構による審査を受け、令和2年1月31日、その認定を受けました。当院は、「熱心な指導医による指導体制が構築されており、研修医の満足度は非常に高いものがある。」と良い評価をしていただきました。

これを契機に、引き続き臨床研修病院としての質の向上を図り、より良い医師の育成に寄与できるよう努力してまいります。

認定期間：
2020年3月1日から4年間



新任医師のお知らせ

村井 隆(むらい たかし)



専門分野：救急総合診療
学会・資格：
日本救急医学会 専門医
日本内科学会 総合内科専門医
ICLS インストラクター
ALSO インストラクター
Diploma in Tropical Medicine and Hygiene
メッセージ：
2020年10月より救急科に勤務しており、ERでの初期診療を担当します。
各科専門医と協力して、地域の救急医療を担いたいと思います。

多くの皆さまからのご厚意に感謝申し上げます

当院の新型コロナウイルス感染症の対応に対して、個人、団体、企業の皆さまからマスクや手作り防護具など様々なご支援を多数いただきました。

皆さまからのご支援や激励は、新型コロナウイルス感染症に立ち向かう医療現場のスタッフにとって

何よりも励みになっています。あらためてご厚意に感謝申し上げます。

今後も全職員が一丸となって、安心・安全な医療を提供できるよう、努めてまいります。



【ご寄附のご案内】

■ふるさと寄附金の制度や申込み手続きなどについては、箕面市ホームページ (<https://www.city.minoh.lg.jp/eigyoku/hurusatokihukin/home.html>) をご覧ください。

■お申し込みいただく際、申込書の寄附の内訳欄で「5 箕面市立病院の医療体制の充実・強化」をお選びいただきますと、市立病院への寄附となります。

※ふるさと寄附金をかたった寄附の強要や詐欺行為などには十分ご注意ください。

■お問い合わせ 病院経営室 電話 072-728-2001 (代表)

市民医療講座中止のお知らせ

今年度の市民医療講座は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、すべて中止とさせていただきます。ご理解の程、お願いいたします。



こちらも、ご覧ください！ リアルタイムな情報が満載！ 箕面市立病院HP

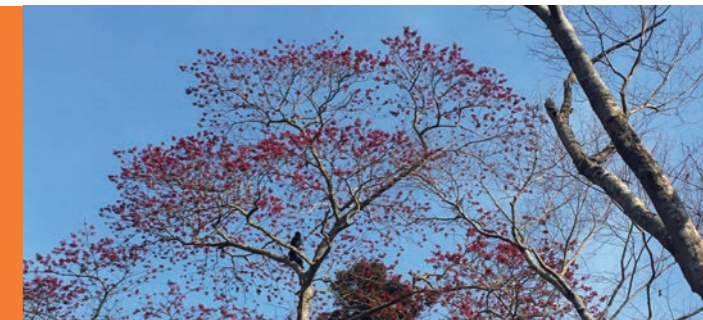


箕面市立病院だより

2020.12 Vol.36

<https://minoh-hp.jp>

編集発行：箕面市立病院 事務局病院経営室 ☎072-728-2001



特集：がんを手術せず治す、予防する

新型コロナウイルス感染症について

～家庭でできる感染予防対策～

箕面市立病院には感染制御専門の認定看護師がいます。感染制御部 四宮 聡 副部長から、新型コロナウイルス感染症について、ご説明します。



● 新型コロナウイルス感染症とは？

新型コロナウイルス感染症は、ウイルスが体内に入って約5日で発症します。無症状のかたもいますが、主な症状は、発熱、咳、倦怠感など風邪症状に似ています。若いかたであっても、脳梗塞を起こすことが報告されているため、単なる風邪と同じとはいえません。症状がその後数か月続いてしまう後遺症の報告もあり、この点も風邪と異なります。

● なぜ新型コロナウイルスは対策が困難になりやすいのか？

新型コロナウイルス感染症の症状が出る2日前からすでにウイルスを排泄しています。そして、咳・くしゃみ・大声などで発生する「飛沫」やウイルスが付着した手で目・鼻・口を触る「接触」で、人から人へうつていきます。体調が悪くない時からウイルスが排泄され、飛沫や接触を介して広がっていくため、対策が困難になりやすいのです。

● どんなことに気をつけたらいい？

家庭でできる新型コロナ対策				
首より上を触る時は手を清潔に(手洗いまは手指消毒を)	換気を大切に(窓があれば開ける、車では外気導入モードなど)	同居者以外と屋内で会話するときは、マスクを着用	体調が悪いときは、仕事に行かない	空間や物の消毒は、神経質になりすぎない(換気を優先する)

● 地域全体での新型コロナ対策

当院では、保健所と連携し、定期的に市内の病院・施設へ情報提供と相談対応を行っています。また、従来から地域支援活動として研修を企画してきましたが、動画配信やWeb会議に切り替えています。今後も市立病院と地域の医療・福祉施設が一体となって新型コロナウイルス対策を推進していきます。

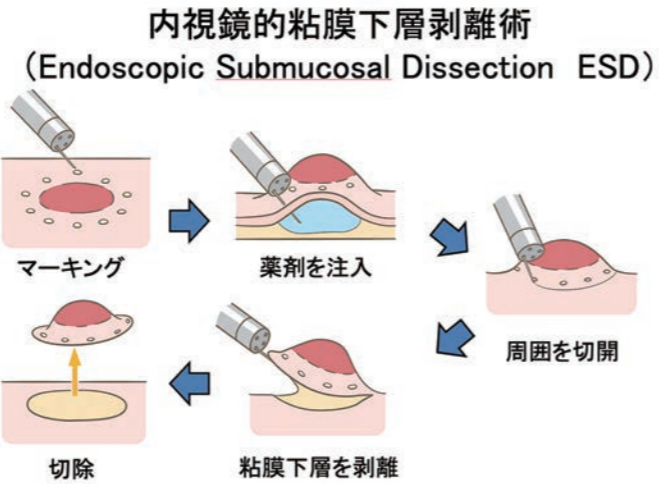
がんを手術せず治す、予防する

消化器のがんは、早期に発見すれば手術せずに治すことが可能です。がんを予防することもできるようになってきています。消化器がんの内科的治療と予防法について説明します。

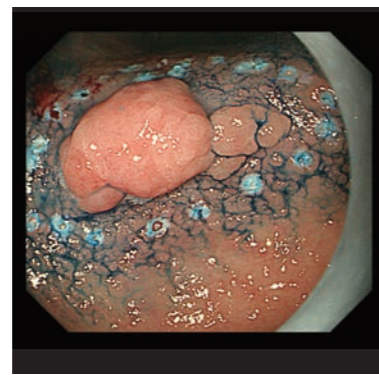
食道がん、胃がん、大腸がんの内視鏡治療

食道がん、胃がん、大腸がんは、早期に発見すれば手術ではなく、内視鏡治療で治すことができます。内視鏡を口から入れ、図のようにがんの外側にマーキングをして、さらにその外側を切開した上で粘膜下層を剥離し切除します。

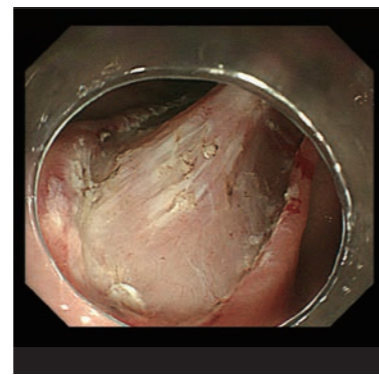
内視鏡治療では、がんのみを内視鏡を用いて切除しますので、切除後の潰瘍が治癒すると元の状態に戻ります。臓器は温存され体への負担も少なく、手術の痕も残りません。ただし、内視鏡治療で治すためには早期の段階で見つける必要があります。胃カメラや便潜血検査などのがん検診を定期的に受けることが重要です。



早期胃がん



マーキング

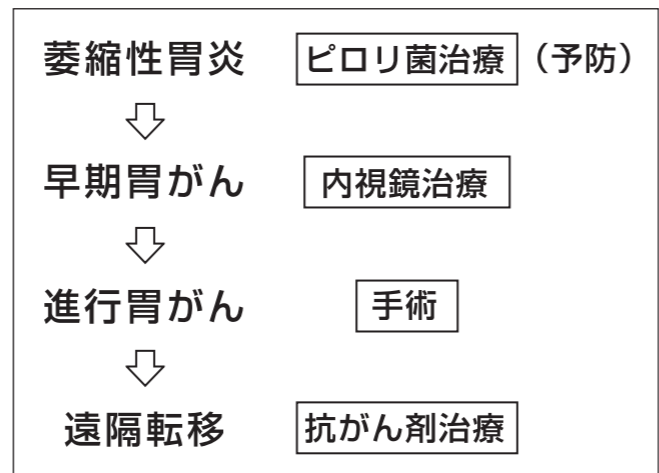


切除後

胃がんの予防

胃がんの主な原因はヘリコバクター・ピロリ菌と言われています。この菌は子どもの頃に感染すると言われており、胃潰瘍や十二指腸潰瘍の原因となります。そして長年に感染が続くと萎縮性胃炎から胃がんが発生すると考えられています。

胃カメラで萎縮性胃炎を認めた場合はヘリコバクター・ピロリ菌に感染していることが多いので、ヘリコバクター・ピロリ菌の検査を行い、内服薬で治療を行います。1週間の内服治療で多くの場合、菌は消失します。菌が消えると胃がんの発生の危険性は低下しますが、危険性がゼロになるわけではありませんので、その後も定期的な胃カメラ検査が必要です。

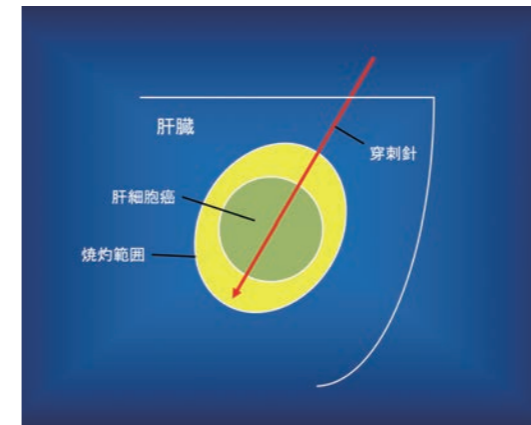


胃がんの進展と治療

肝細胞がんの超音波検査(エコー)下治療

肝細胞がんも早期に発見すれば手術せずに直すことができます。エコーで観察しながら、図のように皮膚から肝臓の腫瘍に細い針を刺して、熱を加えてがん細胞を焼き殺します。焼灼時間は通常5分から12分程度です。3cmまでの腫瘍であればこの方法で治療できますが、より小さい腫瘍の方が確実に治療できますので、できるだけ小さいうちに見つけることが重要です。

肝細胞がんの原因で最も多いのはB型肝炎やC型肝炎などのウイルス性肝炎です。これらの疾患ではエコーなどの定期的な画像検査を行い、早期発見を目指す必要があります。また、最近ではアルコール性肝疾患や脂肪肝からの発生も増えているので、これらの疾患でも定期的な画像検査が必要です。



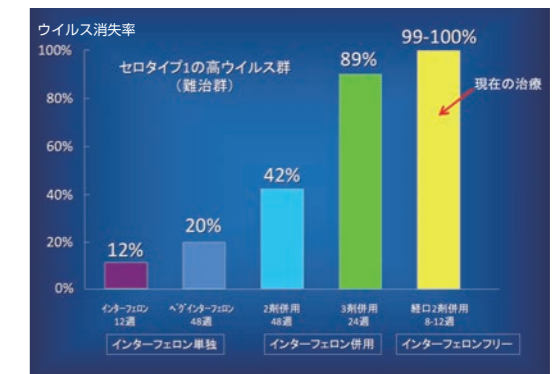
肝細胞癌のエコー下治療



エコー下治療後のCT画像

肝細胞がんの予防

肝細胞がんの原因で最も多いのはC型肝炎です。C型肝炎の治療は進歩しており、現在では2~3ヶ月の内服治療で大きな副作用なく、ほぼ100%ウイルスを消すことができます。ウイルスが消えると肝細胞がんの発生の危険性が下がると言われていますが、胃がんと同様にがんの危険性はゼロにはならないため、エコーなどの定期的な画像検査が必要です。肝細胞がんの予防のためにはウイルス治療が重要ですので、C型肝炎のかたはぜひ治療をお勧めします。



C型肝炎のウイルス消失率の推移

当院の消化器内科について

- 消化器内科は、医師10名で外来や入院治療、内視鏡検査・治療を行っております。また、院内の外科・放射線科と密接に連携をとりながら、消化器疾患に対する迅速な診断・治療を行っています。
- 月曜日から金曜日まで平日、診察や検査、内視鏡検査やエコー検査を実施しており、さらに内視鏡的止血術や腸閉塞などの緊急治療も行っています。初めて受診する場合や、当院を長く受診されていない場合には、診療所の医師から紹介状をもらってください。診療所の医師は、当院の地域医療室を通じて簡単に予約をとることができ、待ち時間も少なくてすみます。(紹介状がないかたは、初診料加算金として5,000円(別途消費税)を負担していただきます。)
- その他、消化管超音波内視鏡専用機による検査(内視鏡を使って消化管の内部から、超音波機器で膵臓や胆管の病変を調べる検査)や、難治性腹水に対するCART(腹水ろ過濃縮再静注法)も一泊二日入院で行っています。
- 消化器疾患が疑われる場合は、まずは、お近くの診療所にご相談いただき、詳しい検査や治療が必要な場合は、紹介状をお持ちのうえ、ぜひ当院にお越しください。

